

文化・技術の外交解説

大使館の仕事について紹介する在マダガスカル日本大使館職員Ⅱ鹿嶋市田野辺



在マダガスカル大使館職員

鹿島学園高で講演

外交や国際問題に理解を深めてもらおうと、在マダガスカル日本大使館の職員によるオンライン講演会が10日、鹿嶋市田野辺の鹿

23人が参加した。同校のグローバルコースでは、国際知識や実用的な英語力を養う授業を設け、国際的に活躍する人材の育成に取り組んでいる。

講師を務めたのは、同大使館の開発協力班長で一等書記官の片桐啓さん(46)。講演では、マダガスカルの町や農村の様子を紹介しながら、文化交流や技術協力など日本が関わる事業を解説。地球温暖化の影響で干ばつや飢餓に苦しむ南部地域の説明では、日本の緊急支援に携わった経験を伝えた。

島学園高(石塚孝男校長)で開かれた。同校のグローバルコースの生徒が参加し、外務省や海外で働く進路選択への関心を高めた。講演会は外務省の高校講座の一環で、1〜3年生計

このほか、日本語とフランス語の通訳の仕事も紹介。通訳などとして活躍するための語学習得についてもアドバイスし、「自分が得意なことを磨くと、異文化交流に役立つ」と語った。講演後の質疑応答では、生徒から「外務省に入ろう

と思ったきっかけは」「外国語を学んだことで良かった経験は」などと多くの質問が上がった。

キャビンアテンダントを

目指す2年生の椎木遼さん(17)は「自分のやりたい職業に就くためにも、もっと外国語を学びたい」と意欲を燃やした。(松浦かえで)